

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び理解】 社会で生活するのに必要な国語の知識や技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 他者の意見に深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自らの言葉で主張をする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	高等学校新編現代の国語（第一学習社）
教科	国語	科目名	現代の国語			副教材	トータルサポート 新国語便覧 改訂版（大修館書店）
単位数	2単位	区分	必履修			副教材	意味で覚えて漢字を知る 漢トレ（い いずな書店）
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	「ナマケモノになる」辻信一 （筆者の主張と一般論を使い分けて読み解く） 「十六歳のとき」星野道夫 （筆者の経験を整理し、筆者の主張を読み解く） 書き方の基礎レッスン （主述の整った文を書く・接続表現を使い分ける）	話し方の工夫・スピーチで自分を伝える （言いたいことを簡潔にまとめ、相手に効果的に使える） 「弱いロボット」の誕生」岡田美智男 （論理的な文章構成を理解し、筆者の主張を読み解く） 「イースター島になぜ森がないのか」 （主張と論拠を見極め、情報と情報の関連を考えて読む）	「「間」の感覚」高階秀爾 （対比構造を意識して文章を読み解く） 「地域の魅力を紹介する」 （身近なものに目を向け、効果的な表現方法を考える 生成A I を用いて視覚で効果的に表現する）
授業時数	24	32	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	実社会に必要な国語の知識（漢字・語句）や技能を身に付ける。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方についておおむね理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や、筆者の意見を適切に読み取る力を基に、意見を構築し、他者との関わりの中で共感し、伝え合う力を高める。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を十分に把握することができている。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨をおおむね把握することができている。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を把握することができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つようとしている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることが十分できている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることがおおむねできている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 文化理解に必要な国語の知識や技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物に深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自らの言葉で主張をする。 【学びに向かう力、人間性等】 近現代文学や古典を通して他者や文化に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	高等学校 標準言語文化（第一学習社）
教科	国語	科目名	言語文化			副教材	トータルサポート 新国語便覧 改訂版（大修館書店） 読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315 四訂版（桐原書店）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

	1学期	2学期	3学期
授業内容	「とんかつ」三浦哲郎 （せりふや行動から人物や心情を読み取る） 「兄のそら寝（宇治拾遺物語）」 （歴史的仮名遣いを意識して古文に親しみを持つ） 生成AIを用いた画像作成 （教科書に登場した文章を基に挿絵を作る）	「絵仏師良秀（宇治拾遺物語）」 （動詞の活用に注意して読解する） 「羅生門」芥川龍之介 （行動や心理を基に場面の展開を捉える） 「二十億光年の孤独」谷川俊太郎 （対比や比喩などに注目して現代詩を味わう）	「夢十夜」夏目漱石 （作品理解への根拠を読み取る） 「矛盾」韓非子 （訓読の決まりに従って漢文を読み解く） 「五十歩百歩」孟子 （故事成語の由来となった話を通して、現代語とのつながりを読み解く）
授業時数	24	32	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	古典読解のために必要な、歴史的仮名遣いや動詞の文法について理解している。 適切な場面・心情理解のために必要な単語の意味を理解している。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を理解し覚えている。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を理解している。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を確かめられる。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力・判断力・表現力等	文章内容や構成、展開や心情などを的確に捉え、自分のものの見方や感じ方を深めている。 思考に必要な語彙を豊かにし、その語彙を用いて適切で効果的な表現方法を身につける。	文章に書き表されていることの理解を踏まえて、そこにつながるまで思考していくことができる。	文章にどういったことが書き表されているのかを正しく理解している。	文章に書かれていることに関心を持たず、その内容を考えようとする。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
	古典作品や文学作品を通して、我が国の文化や外国の文化を理解し、その特質や関係性などを進んで思考し、深めることができる。	文章についての課題を自ら見つけ、その意味合いを主体的に考え、自らの問題につなげられる。	文章に主体的に向き合い、その内容を意欲的に理解している。	文章に対して真摯に向き合うことができない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び技能】 近現代の日本と世界の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報をまとめる技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 近現代史の変化に関わる事象の意義や特色を、概念を活用して多面的・多角的に考察し、表現する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、自国・他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	教科書	「明解 歴史総合」(帝国書院)
教科	地理歴史	科目名	歴史総合			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
		1部歴史の扉	1章 歴史と私たち	3部国際秩序の変化や大衆化と私たち	2章 第一次世界大戦とその影響 3章 大衆社会の形成と社会運動 4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方 5章 第二次世界大戦とその影響	4部グローバル化と私たち
	2部近代化と私たち	2章 江戸時代の日本と結びつく世界 3章 欧米で生まれる国民国家 4章 産業革命による欧米とアジアの変化 6章 帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化				
	テーマ 国民統合の進展は、後の人々にどのような考えや課題をもたらすか	「18世紀までのヨーロッパ(大航海時代)」 「イギリス市民革命とアメリカ独立革命」 「産業革命とその影響」「フランス革命」 「ナポレオン戦争とウィーン体制」 「反ウィーン体制と近代ヨーロッパの転換点」 「ドイツ・イタリアの統一」「アヘン戦争」 「冊封体制と東アジア」「変動する東アジア」 「日清戦争」「日英同盟と日露戦争の影響」	テーマ WWIが長期戦となり、未曾有の被害をもたらした最大の要因は何か	「バルカン問題と大戦の勃発、ロシア革命」 「ヴェルサイユ体制」「アジアの民族自決」 「大衆社会の出現と大衆の政治参加」 「WW I後の欧米諸国」「大正デモクラシー」 「世界恐慌」「ファシズムの台頭」 「宥和政策」「満州事変と日中戦争」 「WW IIの拡大」「太平洋戦争とWW IIの終結」 「太平洋戦争の終結」「戦後処理と日本の改革」 「冷戦の始まり」「東アジアと日本の独立」	テーマ 西ヨーロッパと東南アジアの地域統合の背景や成果の共通点と相違点は何か	「米ソの緊張緩和と核問題」 「日米同盟と高度経済成長」 「パレスチナ問題と中東戦争」 「ベトナム戦争と黒人問題」 「冷戦下の日本の外交と領土問題」 「日本と北朝鮮(拉致問題)」 「冷戦の終結と地域統合」 「中東問題」
授業時数	25時数		30時数		15時数	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	近現代史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、生成AIを適切かつ効果的に活用して、諸資料から歴史に関する様々な情報をまとめる技能が身についたかどうか。	近現代の歴史的事象について、基本的な用語・出来事・人物・制度などを正確に理解し、それらを相互に関連付けながら説明することができる。また、資料・年表・図版などを的確に読み取り、生成AIの活用も含めて、歴史的事象の特色や意味を根拠に基づいて説明できる。	近現代の歴史的事象について、基本的な用語・出来事・人物・制度などをおおむね理解している。また、資料・年表・図版などから必要な情報を読み取り、生成AIも活用しながら、歴史的事象の概要を説明することができる。	近現代の歴史的事象に関する基本的な用語や出来事・人物の理解が十分ではなく、資料・年表・図版などから必要な情報を読み取ることや、生成AIを学習の補助として適切に活用することに課題がある。	・定期考査 年3回 (各学期1回) ・単元テスト 年5回 (1学期・2学期:2回、3学期:1回)
思考力、判断力、表現力等	近現代史の変化に関わる事象の意義や特色を、時期や推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考えたことを効果的に説明し、議論したりする力が身についたかどうか。	近現代の歴史的事象について、複数の資料や視点をもとに多面的・多角的に考察し、歴史的背景や因果関係、現代社会とのつながりを踏まえて、自分の考えを根拠に基づいて分かりやすく表現できる。	近現代の歴史的事象について、資料や授業内容をもとに考察し、歴史的背景や因果関係について自分の考えを表現することができる。	歴史的事象について自分の考えを表現しようとしているが、根拠が不十分であったり、歴史的背景や因果関係を踏まえた考察に課題がある。	・定期考査 年3回 (各学期1回) ・単元テスト 年5回 (1学期・2学期:2回、3学期:1回)
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めたかどうか。	毎回の授業の学習課題や単元を貫く問いに対して主体的に取り組む、ペア・グループ活動や振り返りを通して、自分の考えを深めようとしている。また、授業で得た知識や他者の意見を踏まえ、歴史的事象を自分ごととして捉え、学びを次に生かそうとしている。	毎回の授業の学習課題や単元を貫く問いに対して取り組み、ペア・グループ活動や振り返りを通して、自分の考えをまとめようとしている。	毎回の授業の学習課題や単元を貫く問いへの取り組みが十分ではなく、ペア・グループ活動や振り返りを通して自分の考えを深めようとする姿勢に課題がある。	・授業プリントの取組状況 ・振り返りシート(自己分析シート)の取組状況

令和8年度 年間授業計画				科目の目標 【知識及び理解】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数値化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】数や式を多角的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、図形の構成要素間の関係に着目して論理的に考察し表現する力、関数関係を活用して事象の特徴を表や式、グラフで関連付けて考察する力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	教科書	最新 数学 I (数研出版)
教科	数学	科目名	数学 I		副教材	Study-UPノート数学 I (数研出版)
単位数	3単位	区分	必修			
学年	1学年	形態	習熟度別			

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期		
	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	【第1章・第2章で身に付ける力】 ア 知識及び技能 (ア) 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 (イ) 集合と命題に関する基本的な概念を理解すること。 (ウ) 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めること。 (エ) 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めること。 イ 思考力、判断力、表現力等 (ア) 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明すること。 (イ) 問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多角的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。 (ウ) 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察すること。 (エ) 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用すること。	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 7. 2次不等式	【第3章で身に付ける力】 ア 知識及び技能 (ア) 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 (イ) 2次関数の最大値や最小値を求めること。 (ウ) 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解すること。また、2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めること。 イ 思考力、判断力、表現力等 (ア) 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多角的に考察すること。 (イ) 2つの量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	【第4章で身に付ける力 (続き)】 (ウ) 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めること。 イ 思考力、判断力、表現力等 (ア) 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くこと。 (イ) 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方
授業時数	35		45		25		

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力、判断力、表現力等	命題の条件や結論に着目し、数や式を多角的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表や式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び技能】 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	教科書	最新 数学A (数研出版)
教科	数学	科目名	数学A			副教材	Study-up ノート 数学A (数研出版)
単位数	2	区分	自由選択				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 ・ 数え上げの原則 ・ 順列・組合せ 第2節 確率 ・ 確率とその基本的な法則 * 余事象, 排反, 期待値 ・ 独立な試行と確率 〈内容〉 確率の意味や基本的な法則についての理解を深めるとともに、それらに基づいて不確実な事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする力などを培う。	第2章 図形の性質 第1～3節 平面図形 ・ 三角形の性質 ・ 円の性質 ・ 作図 第4節 空間図形 〈内容〉 三角形の性質や円の性質など平面図形に関する基本的な性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりする力を培う。また、コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、図形の性質や作図について、統合的・発展的に考察できるようにする。さらに、空間における直線や平面についての基本的な性質について理解し、それらを身近な事象の考察に活用できるようにする。	第3章 数学と人間の活動 数量や図形と人間の活動 遊びの中の数学 * ユークリッドの互除法, 二進法, 平面や空間における点の位置 〈内容〉 数学が文化と密接に関わりながら発展してきたことを踏まえ、数学的なものの見方や考え方、数学的な表現や処理、数学的活動や思索することの楽しさなどに焦点を当て、数理的に考察することの有用性や数学のよさを認識できるようにするとともに、統合的・発展的に考察する力や、事象を数理的に考察する力、数学を積極的に活用する態度などを培う。指導に当たっては、このねらいを十分達成できると考えられる教材を、生徒の特性や学習履歴などを踏まえて適切に取り上げることが大切である。
授業時数	20	30	20

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	思考力、判断力、表現力等	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能をおおむね身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けていない。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用し、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていない。	提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び理解】 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。	教科書	i版生物基礎（啓林館）
教科	理科	科目名	生物基礎			副教材	生物基礎の基本マスター（啓林館）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期			
	細胞や代謝の基本を身に付ける。	遺伝子の基本について身に付ける。	遺伝子や体内環境の基本について身に付ける。		免疫の実態や生態系の基本について身に付ける。			
	1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATPの構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸	2章 遺伝子とその働き 1 生物と遺伝情報 2 DNAの構造と遺伝情報 3 DNA複製 4 DNAと染色体 5 細胞周期とDNAの分配 6 細胞周期とDNA量の変化	2章 遺伝子とその働き 7 遺伝子発現とタンパク質 8 転写と翻訳 9 遺伝暗号表 10 遺伝子発現と維持	3章 神経系と内分泌系 1 恒常性と体液 2 血液凝固と線溶 3 恒常性に関わる神経系 4 自律神経系と脳死 5 ホルモンによる調節	4章 免疫 6 ホルモン分泌の調節 7 血糖濃度の変化と糖尿病 8 血糖濃度の調節の仕組み 9 体温と水分量の調整	4章 免疫 6 抗体とその利用 7 免疫記憶とその利用 8 免疫と病気	5章 植生と遷移 1 環境と生物 2 光の強さと植物 3 森林の階層構造と土壌 4 遷移の過程 5 遷移に伴う環境の変化 6 遷移と世界のバイオーム 7 日本のバイオーム	6章 生態系とその保全 1 生態系における生物の役割 2 種多様性と食物連鎖 3 生態系と生態ピラミッド 4 キーストーン種と絶滅 5 生態系のバランスと変動 6 人間環境と生態系 7 生物濃縮 8 外来生物 9 生物多様性と生態系の保全 10 生態系と人間生活
授業時数	25		25		20			

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を十分に理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が十分に身に付いている。	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解が不十分であり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力、判断力、表現力等	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	探究の過程を通して、問題を見だすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が十分に習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が十分に養われている。	探究の過程を通して、問題を見だすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が養われている。	探究の過程を通して、問題を見だすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法の習得が不十分である。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力の育成が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が十分に養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が十分に養われている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が不十分である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識・技能】化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】観察などを行い、科学的に探究する力を養う。 【主体的に取り組む態度】化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	教科書	第一学習社 高等学校 新化学基礎
教科	理科	科目名	化学基礎			副教材	改訂 ネオバルノート化学基礎
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	原子の構造を理解する。	共有結合について理解する。	化学反応式を書くことができる。	中和反応について理解する。	酸化数を求めることができる。	
第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離(1) ②物質の分離(2) ③物質を構成する元素 ④元素の確認 ⑤物質の三態 ⑥原子の成り立ち ⑦同位体とその利用 ⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表	第2節 化学結合 ①イオン(1) ②イオン(2) ③イオン結合 ④イオンからなる物質 ⑤共有結合(1) ⑥共有結合(2) ⑦分子の極性 ⑧分子間に働く力 ⑨分子からなる物質 ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質と粒子の数 ④物質と質量 ⑤物質と気体の体積 ⑥溶解と濃度 ⑦化学反応式(1) ⑧化学反応式(2) ⑨化学反応の量的関係	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱 ③水素イオン濃度とpH ④pHの測定 ⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定 ⑧中和滴定曲線	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤(1) ④酸化剤と還元剤(2) ⑤金属のイオン化傾向 ⑥金属の反応性 ⑦電池 ⑧電気分解		
授業時数	25		25		20	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応について、理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応について、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応について、理解が不十分であるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性が習得できている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性が習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見直しをもちったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)に主体的に関わり、見直しをもちったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)に関わり、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応(酸・塩基)に関わり、科学的に探究しようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び技能】 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するため、運動に親しみとともに、公正・協力・責任・参画などの意欲を育て	教科書	現代高等保健体育
教科	保健体育	科目名	体育1			副教材	なし
単位数	3単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期				
	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 C 陸上競技 ア 短距離走、中距離走 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型	ストレッチ 50m・1500m バスケットボール バレーボール・バドミントン	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型	縄跳び ストレッチ アルティメット テニス	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 C 陸上競技 ア 長距離走 H 体育理論 (1) スポーツの文化的特徴や 現代のスポーツの発展	ストレッチ 3000m・4000m	授業時数	35	45

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	運動の多様性や体力の必要性について理解しており、それらの技能を十分に身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性についてほぼ理解しており、それらの技能をほぼ身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性について理解が不十分で、それらの技能の習得が不十分である。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分にある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度がある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が不十分である。	授業への取り組み 学習カード 出席状況

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	教科書	現代高等保健体育（大修館書店）
教科	保健体育	科目名	保健1			副教材	なし
単位数	1単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1学期	2学期	3学期
	1単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 時代の変化に応じて、とらえ方がかわる健康の考え方について学習する。	1単元 現代社会と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり 健康のために個人や社会に求められることを学習する。	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法 事故や自然災害、犯罪などへの備えの大切さとともに、被害が起こっても最小限にとどめるための知識や技能を学習する。
授業時数	12	14	9

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	思考力、判断力、表現力等	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、技能を十分に身に付けていない。
主体的に学習に取り組む態度	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢
	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	主体的・意欲的な態度が十分にあり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的な態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的な態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】曲想と音楽の構造について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	教科書	MOUSA1
教科	音楽	科目名	音楽 I			副教材	ジュニアクラスの楽典問題集
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	必修選択				

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	<p>○歌唱 ・校歌</p> <p>校歌を通じて基礎的な発声方法を養うとともに、楽典で学ぶ音楽記号と譜面との関わりを知り、楽譜に書かれている情報を読み取り音楽表現につなげる力を養う。</p> <p>○ボディーパーカッション ・プリマス ロック</p> <p>ボディーパーカッションの練習を通じてリズム感と他者と聴き合う力を高め、アンサンブルを楽しむ仲間と協同する力を育てる。</p> <p>○楽典・ソルフェージュ ・副教材 ～p30</p> <p>楽譜の構造、音符表記、音楽記号・用語を知り、ソルフェージュの能力を高め、音楽表現・演奏活動の基礎的な力をつける。</p>	<p>○鑑賞 ・ハアスプレー</p> <p>声や様々な楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを考える。</p> <p>音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きを感じる。</p> <p>楽典の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の効果を感じる。</p>	<p>○歌唱 ・合唱 花</p> <p>各パートの音の重なり方や全体の調和を感じながら仲間の声に合わせて歌う力を養う。曲想と歌詞の内容との関わりを感じながら歌唱表現できる力を養う。</p> <p>指揮を体験し全体をまとめる力を養う。</p> <p>○楽典・ソルフェージュ ～p61</p> <p>楽譜の構造、音符表記、音楽記号・用語を知り、ソルフェージュの能力を高め、音楽表現・演奏活動の基礎的な力をつける。</p> <p>○鑑賞 ・E.T.</p> <p>声や様々な楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを考える。</p> <p>音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受する。</p> <p>楽典の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の効果を感じる。</p> <p>○ギター ・かっこう</p> <p>クラシックギターのアポヤンド奏法とアルアイレ奏法を知り、音色・音量の違いを感じメロディと伴奏の関係をバランスを感じ取る力を育てる。</p>
授業時数	24	28	18

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けられていない。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
思考力 判断力 表現力等	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたる音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】書の表現について幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。【思考力、判断力、表現力等】書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫することができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	教科書	書道 I
教科	書道	科目名	書道 I			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	1年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期			
	○書の用具・用材 ・筆・硯・墨・紙について ・用具による表現効果の違い ・墨色による表現効果の違い ○書写と書道 ・様々な表現 ・国語科書写について ・高等学校芸術科書道について ・古典の学習の意義について	○古典の鑑賞と臨書（楷書） ・書体の変遷と楷書の成立 ・基本点画の筆使い ・九成宮醜泉銘の鑑賞と臨書 ・孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 ・雁塔聖教序の鑑賞と臨書 ・自書告身の鑑賞と臨書 ・牛欄造像記の鑑賞と臨書 ○作品制作 ・臨書する古典/書きたい言葉を考える ・創作の場合は、書体・書風を考える ・草稿の作成 ・練習	○作品制作（続き） ・作品を完成させる ・展示 ※文化祭で学習の成果を発表する。 ○古典の鑑賞と臨書（行書） ・行書の特徴 ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・風信帖 ・三筆・三蹟の書	○古典の鑑賞と臨書（隷書） ・曹全碑	○古典の鑑賞と臨書（仮名） ・仮名の成立と仮名の種類 ・平仮名の単体 ・変体仮名と連綿 ・蓬萊切の鑑賞と臨書 ・高野切第三種の鑑賞と臨書	○創作（漢字かな交じりの書） ・漢字かな交じりの書の鑑賞 ・撰文 ・書体・書風の工夫 ・紙面構成の工夫 ・作品を完成させる	授業時数 24	授業時数 28

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	①用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ②書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ③古典に基づく基本的な用筆・運筆ができています。 ④古典の線質、字形や構成を生かした表現ができています。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けられていない。	・基本的な臨書課題 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
思考力、判断力、表現力等	①古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫している。 ②鑑賞制作においては、意図に基づいた表現を工夫している。 ③書のよさや美しさを感じて捉えることができている。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	・創作物品・臨書作品の制作 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
主体的に学習に取り組む態度	①漢字・仮名の書に関心を持ち、主体的に漢字・仮名の書の用筆・運筆を身に付け、学習で得た知識・技能を積極的に臨書や創作活動に生かそうとしている。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	・ワークシート・プリント

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】造形的な視点について理解を深めるとともに、創造的に表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】造形的なよさや美しさについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	教科書	高校生の美術1 日本文教出版
教科	芸術	科目名	美術 I			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期				
	1. デザイン 紙パック飲料のデザイン 身の回りにある商品 そのデザインや効果を考える 自分で飲料を考え、中身や 商品のアピール方法、陳列等 を考えてデザインする 彩色 仕上げ 組み立て 評価鑑賞	2. デザイン アンビグラム アンビグラムの理解 制作方法の理解 自分の名前をひらがなに直し アンビグラムを制作 彩色 仕上げ 評価鑑賞	3. 工芸 彫刻 手鏡の制作 用途、使いやすさ、道具として の機能を理解するとともに 木工の技術彫刻の技法を学ぶ デザイン 制作 仕上げ 評価鑑賞	4. 絵画 自画像 ・人物の顔の骨格について学び それに基づいた筋肉や皮膚の つき方を理解させる。 ・色々な作品を鑑賞し人物画の 魅力を学ぶ。 ・自己の内面を探り、心の中の 思いや感情を表現する。 ・評価、鑑賞	5. デザイン プッシュステンド ステンドグラスの歴史や技法 を学ぶ オリジナルのステンドグラスの デザインを考える プッシュステンドにて制作 評価講評	6. ペーパークラフト 住居の設計 人の暮らす住居似ついで 居住性、動線、設備等について 考える 自分の住む住居を考え設計 設計図を基に模型を作る 制作仕上げ 評価講評	授業時数	22	28

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	対象や事象を捉え、造形的な視点について理解しているか。創造的な表現をするための技能を身につけ、工夫して表現している。	授業で得た知識を十分理解しており、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、表現したり、構想を展開させる技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けられていない。	課題提出 ワークシート プリント
思考力、判断力、表現力等	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考えるとともに、主題を生成し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することがほぼ出来ている。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	課題提出 ワークシート プリント
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が十分にある。また、画材や道具も大事に扱い、後片付けもしっかり出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り、考察を深めようとする態度がある。画材や道具の扱い、後片付けも、ほぼ出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が不十分である。道具や画材などの後片付けが出来ない。	課題提出 ワークシート プリント

令和8年度 年間授業計画				科目の目標 ① 知識・技能 英語の音や語彙、表現、文法などの知識を理解・習得している。 5領域（聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書く）の技能を身につけている。 ② 思考・判断・表現 目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちを英語で適切に表現している。 相手の意図を理解し、英語でやり取り・発表を行っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 自律的に学習を調整し、振り返りを行っている。	教科書	Power On English Communication I
教科	英語科	科目名	英語コミュニケーションI		副教材	Power On WORKBOOK I
単位数	3単位	区分	必履修			Power On スタディノート I
年次	1年次	形態	習熟度別			

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	Lesson 1 Japan's New Tourism 動詞の現在形・過去形、進行形、助動詞+動詞の原形 Lesson 2 Light from Creatures 受け身、現在完了形、現在完了進行形 Lesson 3 One Small Goal at a Time 不定詞、S+V+O [that節]、動名詞 Lesson 4 Miniature Life 後置修飾の現在分詞、後置修飾の過去分詞、比較級・最上級	Lesson 5 Banana Paper 関係代名詞（主格）、関係代名詞（目的格）、S+seem+to不定詞 Lesson 6 Patterns in Human Behavior It+be動詞+形容詞+that節、S+V [be動詞以外] +C、S+V+O+C [形容詞] Lesson 7 No Plastic or No Future 関係副詞where、関係副詞when、関係代名詞what Lesson 8 Oh My Cod! 現在分詞の分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形	Lesson 9 Is Esports a Real Sport? S+V [知覚] +O+C [現在分詞、原形不定詞]、S+V [使役] +O+C [原形不定詞]、S+V+O ₁ +O ₂ [if などの節] Lesson 10 Never Too Late to Learn and Relearn wish+仮定法過去の節、仮定法過去のif節、仮定を表すwithout句
	授業時数	35	35

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法を理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、詳細に聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、詳しく話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法をおおむね理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、おおむね聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、おおむね話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法の理解が不足している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、聞き取ったり、読みとる技能が欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに、話したり書いたりする技能が不十分である。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えたりしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握することに欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに書くことが不十分で、論理性に欠けている。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を何とか整理して把握しようとしている。	定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取りたり読み取ったりするために必要な語彙や文法事項の習得。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や場面、状況に応じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現・伝え合ったりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化を理解し、聞き手や読み手に配慮しながら、自立的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	教科書	MY WAY Logic and Expression I
教科	英語科	科目名	論理表現I			副教材	MY WAY Logic and Expression I(ワークブック)
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期	
	Lesson 1 Let' s Talk about Ourselves Sや] 学校の施設の場所について、be動詞の現在形を使って、円滑に伝え合う技能を身に付けている。 Lesson 2 School Life 動詞の過去形の用法について理解を深め、自分や身近な人が先週末にしたことを言ったり書いたりする。 Lesson 3 The Arts 好きな絵について、タイトルや作者、好きな理由などを伝える発表から、概要や要点を聞き取る。 Lesson 4 Food and Culture レストランで自分の好みの料理を注文するために、質問したり答えたりする対話から、概要や要点を聞き取る。	Lesson 5 Welcome to Our Town 聞かれた場所までの行き方を、助動詞を使って、質問したり答えたりして会話を続ける。 Lesson 6 Traveling Abroad 不定詞(名詞的用法、形容詞的用法)の用法について理解を深め、身近な人やものごとについて説明する文を言ったり書いたりする Lesson 7 Sports 動名詞の用法について理解を深め、身近な人やものごとについて説明する文を言ったり書いたりする。 Lesson 8 Future Mobilit 最新の製品の機能やその利点について、比較(比較級)を使って、会話を続ける。	Lesson 9 Take Care 健康を維持する方法とその効果などを伝える校内放送から、概要や要点を聞き取る。 Lesson 10 Technology Changes Our Lives 先端科学技術の機能やその技術が役に立つ場面について、関係副詞を使って、会話を続ける。	
	授業時数	25	25	20

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
		論理表現の学習活動において、英語の文法を正しく使用し、なるべくたくさんを語句を用いて話を続けたり会話を続けようとしているか。	話の流れがよく、興味深い内容をしている。理由や例示などの情報が、適切に述べられている。文法の使い方が適切である。	話の流れが悪くなく、おおむね適切な内容を話している。理由や例示などの情報が、おおむね適切に述べられている。文法の使い方がおおむね適切であるが、少し誤りがある。	表現の使い方が不適切である。理由や例示などの情報が、適切に述べられていない。文法の使い方が不適切である。
思考力、判断力、表現力等	論理表現の学習活動において、英語の表現を考え、適切な英語を選び、英文を作成し、話したり書いたり読んだりしているか。	誤りのない適切な表現が使われている。聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。滑らかで、理解しやすい読み方である。	おおむね誤りのない適切な表現が使われている。おおむね聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。(誤りなどが少しある)おおむね滑らかなことなど、理解可能な読み方である。	表現の使い方が不適切である。発音の誤りなどが多く聞き取りにくい。滞ることが多く、理解するのが困難な読み方である。	定期考査 提出物
主体的に学習に取り組む態度	論理表現の授業活動における活動において、相手に自分の事を伝えようとしている。また、学習活動に取り組んでいるかを判断する提出物を提出できるか。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を明確に伝えようとしている。授業の内容をワークを利用して学習している。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を概ね明確に伝えようとしている。授業の内容をワークを利用しておおむね学習している。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を明確に伝えようとしている。授業の内容をワークを利用して学習しているが抜けている箇所がある。	定期考査 自由英作文 ワーク

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 情報と情報技術の役割や特性について理解するとともに、問題解決に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 情報や情報技術を活用して課題を発見・分析し、解決に向けて適切な方法を選択するとともに、その過程や結果を論理的に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 情報社会の一員としての自覚をもち、情報モラルを踏まえながら、主体的に情報や情報技術を活用しようとしている。	教科書	数研出版 改訂版 情報 I Next
教科	情報	科目名	情報 I			副教材	数研出版 改訂版 情報 I Next サポートノート 数研出版 ポイント整理 情報モラル 17th Edition
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

	1 学期	2 学期	3 学期
授業 内容	【目標】 (ア) 情報活用能力の基本を身に付けさせる。 (イ) 情報社会の一員としての自覚を持たせる。 【内容】 1 情報社会と問題解決 ①情報とメディア (ア) ②情報社会と問題解決 (ア) ③身の周りの情報社会 (イ) ④生成 A I と情報社会 (ア) (イ) ⑤情報モラルとセキュリティ (イ)	【目標】 (ア) メディアを主体的に選択し、情報をデザインできる。 (イ) 情報技術の仕組みと構造を理解させる。 【内容】 2 コミュニケーションと情報デザイン ①デジタル情報の仕組み (ア) ②情報デザインと表現 (ア) 3 コンピュータとプログラミング ①情報処理の基本的な構造 (イ) ②アルゴリズム (イ) ③基本的なプログラミング (イ) ④プログラミングを活用した問題解決 (ア) (イ)	【目標】 (ア) 発展的な情報活用能力を身に付けさせる。 (イ) 情報システムの基本的な構造を理解させる。 4 情報通信ネットワークとデータの活用 ①情報通信技術とセキュリティ (イ) ②情報システム (イ) ③データベースの仕組み (ア) ④統計データの分析 (ア) ⑤データ分析を活用した問題解決 (ア) (イ)
	授業時数	25	30

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
		効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	授業で得た知識を十分理解しており、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識を理解しており、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能を身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分であり、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能が不十分である。
思考力、判断力、表現力等	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考判断し、表現することが不十分である。	定期考査 Webレポート・テスト等 実習取り組み状況・成果物 提出物等
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度が十分にある。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度がある。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度が不十分である。	定期考査 Webレポート・テスト等 実習取り組み状況・成果物 提出物等

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び理解】 ユネスコスクールとしての特色を理解し、ESDについて知識を深め、自分事として捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 よりよい生き方を主体的に選択し行動する力や、自らの価値観を高める姿勢を育成するとともに、社会に潜在する課題を見いだす力を育む。 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働しながらその解決に向けて考察し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する力を育成する。	教科書	「人間と社会」（東京都教育委員会）
教科	総合的な探究の時間	科目名	人間と社会			副教材	なし
単位数	1単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
		体験活動（全12時間） 4月「ダウンタウンワーク」（6時間分） 【山崎高校周辺の地域を歩き、学校と地域とのつながりや地域の自然・歴史・人々の営みに気付くことで、地域を自分事として捉え、2・3年次の地域探究につながる課題発見の視点を養う。】 5月「バイオエネルギーセンター見学」（6時間分） 【ごみ処理の仕組みや資源循環、3Rの取組について学ぶことで、身近な生活と環境問題との関わりに関わりに気付く、持続可能な社会の実現に向けた課題発見の視点を養う。】 「人間と社会」教科書 4月 第1章 「人間関係を築く」 5月 第2章 「学ぶことの意義」 6月 第4章 「役割と責任」 7月 第8章 「チームを動かす力」	ユネスコの活動分野「教育・科学・文化分野」に関する社会問題を考える 9月「私の履歴書ワークショップ」 【次世代ユネスコ国内委員会と連携し、自己の経験や興味・関心を振り返り、自分の価値観や生き方について考えることで、社会との関わりを自分事として捉え、今後の探究活動につながる課題発見の視点を養う。】 9月「教育分野（教育機会の不足によって生じる負の連鎖）」 10月「科学分野（人間・動物・自然の共生のあり方）」 10月「文化分野（地域の魅力を未来に残す方法）」 12月「探究まとめ発表会（3分野のまとめ）」
授業時数	12時数	18時数	5時数

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
	現代社会や地域社会に見られる課題について理解し、課題の発見・解決に必要な情報収集、生成AIの活用など体験活動に関わる基礎的な知識及び技能を身に付けているかどうか。	自己や地域社会・社会問題について十分に理解し、課題の発見・解決に向けて、情報収集や生成AIの活用、体験活動で得た知識・技能を適切に活用している。	自己や地域社会・社会問題について理解し、課題の発見・解決に向けて、情報収集や生成AIの活用、体験活動に関わる基礎的な知識・技能を身に付けている。	自己や地域社会・社会問題についての理解、または情報収集や生成AIの活用、体験活動に関わる知識・技能の習得に課題がある。	・ワークシートの取組状況 ・発表会での発表内容、討論会への参加状況
	自己と社会との関わりから課題を見だし、収集した情報や他者との対話を基に、多面的・多角的に考察し、よりよい生き方や社会の実現に向けて自分の考えを表現しているかどうか。	社会問題を多面的・多角的に捉え、他者と協働しながら課題解決に向けて自らにできることや解決策を考え、ワークシートや発表資料を用いて自分の考えを分かりやすく説明している。	社会問題について考察し、他者と協働しながら自らにできることや解決策を考え、ワークシートや発表資料を用いて自分の考えを表現している。	社会問題を捉えたり、他者と協働して解決策を考えたり、自分の考えを表現したりすることに課題がある。	・ワークシートの取組状況 ・発表会での発表内容、討論会への参加状況
	演習や体験活動に主体的・協働的に取り組み、自己の生き方や社会との関わりを見つめ直すとともに、社会の一員としてよりよい社会の実現に向けて行動しようとしているかどうか。	自己理解を深め、よりよい生き方を主体的に選択しようとし、2学年の地域探究に向けて、自分の興味関心に合った探究テーマや探究グループを具体的に考え、行動しようとしている。	自分の興味関心を踏まえ、よりよい生き方や2学年の地域探究に向けた探究テーマ・探究グループについて考え、主体的・協働的に活動に取り組んでいる。	自己理解や興味関心の整理、2学年の地域探究に向けた探究テーマ・探究グループを考えること、または主体的・協働的な取組に課題がある。	・ワークシートの取組状況 ・発表会での発表内容、討論会への参加状況